

46th GALAXY AWARDS

ギャラクシー賞贈賞式

2009年6月2日、第46回ギャラクシー賞贈賞式がウェスティンホテル東京（恵比寿）のギャラクシールームで開催された。全国から集まった放送、広告、芸能関係者は約550名。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の各部門の入賞作品が表彰され、その中から〈大賞〉〈優秀賞〉の栄冠に輝いた作品が発表された。

個人賞に輝いた
二宮和也さん



司会はジョン・カビラさんと東海林克江さん



テレビ部門・大賞のトロフィを音好宏理事長から受け取るテムジンの中村豊さん



表彰の楯を胸に立つ入賞者たち

【ラジオ部門・DJパーソナリティ賞】
サンブラザ中野くんさん(左)と宇多丸さんのツーショットに会場が沸いた

■CM部門
表彰はCM部門から。参加作はシ
応募作品の審査とオンエアの視聴
から選ばれるギャラクシー賞。その
独自の審査方法から、放送作品・関
係者に贈られる賞として「国内で最
高の栄誉」とも言われる。
その栄誉に浴するため今年度、
応募・選奨された作品は四部門合わ
せて六〇〇本。放送批評懇談会が
一年間をかけて選り抜いた優秀作品
の中から、栄えある優秀賞・大賞が
発表される。参加者の期待と緊張が
高まるなか、式典は開幕した。

リーズを含めて二七四本。入賞した
一三本はいずれも「不況の中でも、
『買って買って』というより『テレビ
らしい使い方をしようじゃないか』
と工夫を重ねた(委員長評)秀作だ。
優秀賞は、江崎グリコ「OTON
A GLICO」と、北島 マルボ
ウ「佐賀の空の下で逢いましょ」
の二作品。グリコは国民的アニメ
「サザエさん」のカツオ、ワカメ、タ
ラちゃんたちを大人にして登場させ
た話題作。北島は、ボルトガルから
の転校生をめぐる地元少年ナカムラ
君のちょっと切ない心象を描いたほ
ほえましいストーリー。どちらも



46th GALAXY AWARDS

【報道活動部門・優秀賞】



朝日放送 報道局記者の半田俊介さん。「作るのではなく、ありのままを描くことに力を入れた」



札幌テレビ放送 報道制作局報道部副部長の山谷博さん。「小さな石ころを拾ってようやく積み上げた20回でした」



【報道活動部門・大賞】
上：高々とトロフィーを掲げる日本海テレビジョン放送 報道制作局報道制作部次長 福浜隆宏さん「地域から日本を変えていく一つのベクトルを評価されて、本当に嬉しかった」と喜びを噛みしめた



左：右はディレクターを務めた報道制作局長 古川重樹さん



【テレビ部門・特別賞】
数々のドラマをプロデュースしてきた中村敏夫さん。両巨匠を説得したのはまさに快挙。サプライズゲストの伊藤蘭さんは「オレゴンから愛」(1984)、陣内孝則さんは「ライスカレー」(1986)以来のつきあい

「続編」が楽しみなシリーズものだ。大賞は、読売新聞「シリーズ駅伝・お正月家族」。「読売新聞」の広告なのに、登場人物はソフトバンクのCMでお馴染みの白戸家。白い犬のお父さんが「広告に惑わされるな」と吠えるのも笑える。さらに箱根駅伝や掲載された企業の広告でもあり、広告欄の広告でもあるという、実に複雑な仕掛けだ。受賞した電通の澤本嘉光さんは「クライアントは読売

さん、流したのは日テレさん、箱根駅伝を持っている博報堂さんの協力も得て、電通の自分がトロフィーを持っているわけで……、誰になんてお礼を言えればいいのかわからない」と会場を沸かせた。大胆なコラボレーションは、これからの広告界の活路を開く可能性を感じさせた。

■ラジオ部門
ラジオ部門は、日本で唯一の「D

音と喋りだけで東京の息遣いを伝える二時間半の生中継だ。大賞は、エフエム福岡「聞こえない声／有罪と無罪」。ミステリーを楽しみながら、裁判員制度が学べるラジオドラマだ。多くのFM局がワイドを主流とするなかで、年に一本ずつドラマを作り続けて三年。ディレクター大塚和彦さんの努力が、三本目にして大賞に結実した。「ラジオオの本質は音。その音が聞こえなか

「パーソナリティ賞」から。選ばれたのはヒップホップグループ「ライムスター」宇多丸のウィークエンドシャッフル(TBS)のパーソナリティ宇多丸さん。幅広いジャンルを独特のトークで斬り、難しい社会問題もエンタテインメント化して若者の支持を得た、旬の存在だ。ここで前代未聞のサブライズが起きた。ラジオ部門の橋本隆委員長が

■報道活動部門
報道活動部門へのエントリーは今回二九本。六本が入賞を果たし、「発表ジャーナリズム」が、煽りすぎる報道が多い中で、まったく違うレベルの高い作品が集まった(委員長評)。優秀賞は、朝日放送「消費者不在／幻の魚 ク工偽装」。高級魚の驚

らトロフィーを受け取った「宇多丸さん」はスキンヘッドにサングラス。「サンブラザ中野くんによく似ている」と会場の誰もが思った。最初に「あれ？」と怪訝な声を出したのは司会のジョン・カビラさん。読み上げられる「受賞の挨拶」を聞くうちに「もしや？ まさか！」と会場も事態を飲み込み始めたころ、影武者」として登場したのが本物の宇多丸さん。意表を衝く演出に司会者も会場もタ

【CM部門・優秀賞】



OTONA GLICOで受賞の江崎グリコ コミュニケーション本部 広告部長の服部聖一さん



北島「佐賀の空の下で〜」電通九州 シニア・クリエイティブディレクター植原政信さん



【CM部門・大賞】
トロフィーを受ける電通 エグゼクティブ・クリエイティブディレクター澤本嘉光さん。複雑な関係者のなかで利害の調整などは「死ぬような苦労」だったとか……



【ラジオ部門・大賞】
「地方で単発のラジオドラマを作っていくのは難しいが、これを励みに次のステップを踏み出したい」と語るエフエム福岡 取締役放送本部長の首藤裕さん(左)と、フリーディレクターの大塚一彦さん

【ラジオ部門・優秀賞】



発表に満面の笑みと歓声で応えたかでかるさとしさんの挨拶は、元気に溢れた沖縄言葉



秋田放送 ラジオ局ラジオ制作利部昭勇さん。制作途上の鐘の行方をこれからも追う予定



ニッポン放送 制作部アナウンスルーム上柳昌彦さんは第41回DJパーソナリティ賞受賞者



【テレビ部門・大賞】
左からテムジン・ディレクター中村豊さん、NHKエンタープライズ大門博也さん、NHK堤啓介さん、テムジン・プロデューサー矢島良彰さん。5年以上かけて集められた証言があぶり出す「認罪」の意義が、50年の時を経て日本社会に問われた



東海テレビ 報道局報道部ディレクター齊藤潤一さん。プロデューサーの阿武野勝彦さんとは昨年の大賞受賞コンビ



毎日放送 報道局次長兼番組センターシニアディレクター里見繁さん。制作の動機は「明日は我が身」に会場は大爆笑



NHK制作局第2制作センタードラマ番組プロデューサー岡本幸江さん。「主役2人の演技を私も堪能させていただいた」



【テレビ部門・個人賞】嵐として絶大な人気を誇る一方で、演技者として確かな評価を積み重ねてきた二宮和也さん

贈賞式もいよいよ大詰め。二五六本のテレビ番組から選り抜かれた一四本が表彰された。ドラマが三本も入賞したのは久しぶり。ドキュメンタリーは、NHK三本のほかは、すべて地方局の作品だ。

優秀賞の一本目は東海テレビ放送「光と影」光市母子殺害事件 弁護団の300日。弁護団ハッシングを煽るメディアとは一線を画して、ハッシングにも負けなかった勇氣あ

くべき実態を暴いた調査報道だ。もう一本は、札幌テレビ放送のSTVニュース・シリーズ「そこにある地球温暖化」。豊かな自然に恵まれた北海道だけに温暖化の取材は困難、それを乗り越えた成果だ。

大賞を獲得したのは、日本海テレビジョン放送の「家庭芝生化普及キャンペーン」だった。利用者自身が家庭に芝生を植える「鳥取方式」はローコスト、農業なし、雑草抜きなし。五年にわたる地元局の誠実な報道で、その動きは今や全国に広がっている。一人のアイデアを局が応援し続け、子どもたちや地域の人々が変わり、行政まで動かしたことで、キャンペーン報道の真骨頂を示した。

テレビ部門には、番組の表彰のほ

【テレビ部門・マイベストテレビ賞】
受賞に喜ぶ「流星の絆」プロデューサーの那須田淳さん(右)、磯山晶さん、主演の二宮和也さん。「原作はミステリーですが、僕は青春ドラマが作りたかった」と那須田さん

個人賞は二宮和也さんに。同年代の役者の中でひととき光る感性を「流星の絆」「DOOR」「TO DOOR」などで見せてくれた。黒のタキシードで登場し、弾んだ笑顔でインタビューに答えた。「終わった作品の名前を後になって聞けるのは、駆けつけて祝福した。」



【テレビ部門・マイベストテレビ賞】
受賞に喜ぶ「流星の絆」プロデューサーの那須田淳さん(右)、磯山晶さん、主演の二宮和也さん。「原作はミステリーですが、僕は青春ドラマが作りたかった」と那須田さん

制作姿勢が評価された。トロフィを受けた齊藤さんは「制作したときは、妻から「こんな冷たい人とは思わなかった」と一週間口をきいてもらえなかったが、この受賞で理解してくれるんじゃないか」と会場を笑わせた。

二本目は毎日放送の映像08「彼女は嘘をついたのか」。供述だけで有罪になる痴漢裁判。冤罪の現状を伝えたルポで、被害者を名乗る女子高生の取材にインパクトがあった。

三本目の優秀賞は、NHKのドラマ「お買いもの」。渋谷を訪れた老夫婦の気持ちの高ぶりが胸に響いた。主演(久米明さん、渡辺美佐子さん)の平均年齢は八十歳。ベテランの演技が上質のドラマを生み出した。

【特別賞と個人賞がある。特別賞は中村敏夫さん。フジテレビ開局五十周年に、倉本聰と山田太一の連続ドラマを続けて送り出した統括プロデューサーだ。「風のガーデン」で一人のディレクター(宮本理江子さん)にすべての回の演出を任せしたのは、現在の連ドラでは稀有なこと。

「風のガーデン」の伊藤蘭さんと「ありふれた奇跡」の陣内孝則さんも駆けつけて祝福した。

かに特別賞と個人賞がある。特別賞は中村敏夫さん。フジテレビ開局五十周年に、倉本聰と山田太一の連続ドラマを続けて送り出した統括プロデューサーだ。「風のガーデン」で一人のディレクター(宮本理江子さん)にすべての回の演出を任せしたのは、現在の連ドラでは稀有なこと。



プレゼンターは一般視聴者から選ばれた